

応急救護所

1. 設営について

目標	保	一	二	七	コメント
倉庫等の鍵が開けられ、医薬品・災害備品の保管場所を確認できた	○	○	○	○	初めて携わる先生に確認してもらった(一) 経験者が多くなってきてスムーズだった(七) 保健室の鍵は一緒ではないのか(二)
配置図を見ながら、設営ができた	○	○	○	○	配置図は見ずに設置できた(保)。広すぎて検討が必要。状況に応じて変更もあり(二)。
設営にかかった時間はどれくらいでしたか？	10:10 9:54	10:10 9:50	9:45 10:02	9:35 9:50	上段: 救護所が傷病者受入可能とした時間 下段: 本部が設置完了報告を受けた時間
発電機を全員が起動できた	○	×	○	○	実施せず(一) 全員ではなかった(七)
バルーンライトの点灯ができた	○	×	○	○	実施せず(一)
無線機、プリンター、タブレットの正しい接続ができた	○	○	○	○	無線・アンテナの位置を変更した(二)。

<その他気付いたこと>

コードリールが必要。夜は灯りが足りない(保)。トリアージスペースの間に衝立がほしい(一)。ドアストッパーが必要。案内看板が必要(二)。無線担当の部屋が暑い(七)。

【考察】

開設準備・設営は年々スムーズになってきている。

レイアウトはおおむね配置図どおりで実施しているようだが、各救護所の状況で今後も検討が必要である。

電気・電話が使用できない状況の中での、発電・無線での連絡手段は確立できたと思われる。

保健室の鍵の管理は、現在は七中・二中は学校管理となっている。避難所も開設となれば学校は入れる状況にあるはず。

2. 役割について

目標	保	一	二	七	コメント
各自の役割が概ね遂行できた	○	○	○	○	
手が空いている人が他の役割の人を助けることができた	○	○	○	○	

【考察】

今回は事前に、役割分担を決め、各役割のアクション内容を伝えていたことで、各自責任を持って役割が遂行できたことに繋がった。

実際の有事の際には、集まったメンバーで役割分担を決めて遂行していくことが求められるため、今後も訓練での各役割の確認は必要である。

3. トリアージについて

目標	保	一	二	七	コメント
流れが理解できた	○	○	○	○	
1次トリアージができた	○	○	○	○	
2次トリアージができた	○	○	○	○	全体での共有はできなかった(二) ミッションが出なくても実施できた(七)
<p><その他気付いたこと> 事前に研修会があったため、とてもスムーズに行えていた(保)。 用紙(様式)をトリアージの場面でどう使うのか分からなかった。誰がどこに何を書くのかははっきりしたほうがいい(一)。 2次トリアージを現場で行うのは難しいのでは。トリアージタグは現場に残るのは1枚でいいのか(一)。 2次トリアージの分かりやすいマニュアルを作成し、事前に提示してほしい(七)。</p> <p>【考察】 1次トリアージについては、事前研修会の直後だったことも影響しているが、すべての救護所で正しく行っていたことから、参加メンバーでの理解が深まっていることが伺える。 今後も定期的な訓練で確認していくことは有効である。 トリアージタグ、記録用紙も概ね正しく記載ができていた。応急救護所で使用しているタグは3枚で1枚は現場に残すこと。 2次トリアージについては今回の訓練内では難しかったところもあったため、今後の課題である。</p>					

4. 無線について

目標	保	一	二	七	コメント
音声の通信はスムーズにできた	○	○	○	○	本部が対応していて待つことが多い(一)。
画像電送ができた (担当者表・搬送者リスト)	○	○	○	○	送信に2分かかる。効率を考慮して送信した(一)。
印刷はうまくできた	○	—	○	○	印刷物なし(一)
無線担当者と記録担当者との連携がうまくできた	○	×	○	○	記録者がその場を離れることができないため連携が大切(一)。
<p><その他気付いたこと> 電圧の調整が必要だった。無線での連絡が交錯するため、段階が視覚的に分かるとよい(保)。 無線が順番待ちの時間ができてしまう。報告は精査して送るべき(一)(七)。 多すぎる情報をどの程度記録すべきか。情報共有をどのようにすべきか(二)。</p> <p>【考察】 無線連絡会の方が各応急救護所に1名ずつ入り、救護所での無線での通信はスムーズであった。 今回は、4病院+4救護所の情報が入ってきた本部の混乱があったが、情報の整理は必要である。(後で報告すればよいものや本部にだけ必要な情報など)</p>					

5. 記録用紙について

目標	保	一	二	七	コメント
傷病者一覧が書けた	○	△	○	△	右側記載にあたりタグを探す作業あり(一) 書けたが課題あり(七)
トリアージタグが書けた	○	○	△	○	30秒では難しい(二)

災害診療記録が書けた	○	△	○	○	書くことが多い(一)
搬送依頼リストが書けた	○	○	△	○	
ホワイトボードに必要な情報が書けた	○	○	△	○	どんな内容を記載したらいいか悩んだ(保) マジックが太くて読めない(一)
各職種での日誌が書けた	○	○	○	○	

<その他気付いたこと>

記入間違いをしてしまったことから、正確な情報を記入することを学んだ(二)。

傷病者一覧の右側を記載するタイミングが迷う(保)。

受付用と傷病者リストを分けたほうがやりやすい(二)。

一つの書類を2人で作成するのが困難(七)。

受付で住所まで記入するのは困難では、省略できる箇所の検討が必要(七)。

【考察】

すべての救護所で、傷病者一覧、トリアージタグ(表面)、診療記録の記載はできていた。ただし、一枚目を外していない(保)、2次トリアージの裏面が正しく書けていない(全)状況あり、課題として残った。

傷病者一覧と受付名簿を分けると、記載する用紙が増えてしまう。

記載する情報が多い、どこまで記載したらよいかという意見もあるが、多少時間がかかってしまっても住所や家族の連絡先まで書かないことでのリスクを考え、聞き取り可能な限り記載していく必要がある。

6. 物品について

備蓄品であることが確認できたもの	保	一	二	七	コメント
バルーンライト	○	×	○	○	
テント(プライバシー保護用)	○	○	○	○	初めから設置してもよかった(七)
パルスオキシメーター	○	○	○	○	初めからセットすべきだった(七)
救急キット(保健会館は医師会保管)	×	×	○	○	
ホワイトボード(中学校保管)	○	○	○	○	
水(飲料水、生理食塩水)	○	×	○	○	

<あったらよかったもの>

雨の日用にタオル類(保)

平地でも使える点滴加圧バッグ(一)

ガスボンベ

ライト(バルーンライト・ランタン)(保)(二)

コードリール(保)(七)

衝立(一)

担架・リアカー(一)

【今後に向けて】

予算内で購入できるものは購入し、配置していく。

保管場所にも予算にも限りがあるため、ある物で代用していくことも必要。

雑巾は各救護所に配置済み。担架は保健会館に2台配置した。中学校はリアカーが学校の備品としてあるので借りる。

7. その他、ご意見・反省点等

トリアージした患者がどこにいるか分かるような人体模型等を使用してもよいのでは(保)。

避難所に来る市民が来てしまうので、看板設置が必要(一)。

電気が通じた場合、電話や FAX など複数の手段を用いての訓練(七)。

TY テントが増えたため、倉庫内の置き場に入りきらない状況(七)。

8. 次年度の訓練に向けて

すべての応急救護所で開設、発電機による無線の設置、音声・画像通信は、スムーズに行っていた。救護所責任者を中心に各自の役割を遂行できており、臨機応変な対応もできていたようである。これまで積み重ねてきた訓練と事前の資料やマニュアルに目を通してから参加されていたことが一連の流れがスムーズだった要因と思われる。

記録用紙の書き方やトリアージタグの処理の方法など反省会で出していた内容は、ほとんどマニュアル等に載っている内容であったため、定期的な確認は必要。

応急救護所での傷病者トリアージについては、事前研修会を実施したこともあり、全体的に一次トリアージの理解が深まっており、迅速にかつ正確に行えるようになっていた。

次年度以降の方向性として、応急救護所が市民にほとんど周知されていないことから、市民に向けた開かれた訓練を実施してもよい時期であると考える。

トリアージされる傷病者の役割を担ってもらったり、搬送の際の援助をしてもらったりなど市民と協働しての訓練を検討していく時期であると考える。

あわせて、災害時には傷病者は病院ではなく応急救護所に来てほしいこと、応急救護所で応急処置が受けられること、応急救護所では傷病者をトリアージし、優先順位によって病院への搬送準備をすることなど、応急救護所の役割を市民へ周知することにも力を入れていきたい。